かながわ歴史 亀さんぽ

フォトジェニック

1 松並木

地区センターの前の通りは、宿場だったころの風景を思わせる松並木が見られるスポットです。松並木は、夏に木陰をつくり、冬は吹きつける風や雪から旅人を守る役割もありました。

2 遍照院

お寺までの参道に、京急本線が通る珍しい景色が見られるスポットです。踏切の先には、何度も火災をくぐり抜けて残った山門があり、境内には六地蔵が並んでいます。

3 ポートサイド公園（シーバス・貨物線とみなとみらい）

水辺の先に広がるみなとみらいと、時折シーバスや貨物線の通る景色を眺められるスポットです。園内は波型の芝生などのユニークなデザインを楽しむことができます。

4 幸ケ谷公園の桜

小高い丘にある公園の敷地いっぱいに桜が植えられ、開花すると一面が桜色に彩られるスポットです。

発行：横浜市神奈川区役所区政推進課　平成30年11月発行
〒221-0824　横浜市神奈川区広台太田町3-8
tel：045-411-7028　fax：045-314-8890
協力：横浜市歴史博物館　学芸員 小林 紀子

歴史

寺社

❶ 大綱金刀比羅神社

平安時代の終わりにできたと伝えられる神社です。もとは飯綱社といわれ、いまの神社があるうしろの山の上にあり、かつてこのあたりに広がっていた神奈川湊に出入りする船乗りたちから信仰されていました。大天狗の伝説でも知られています。

❷ 三宝寺

まるで空中に浮かんでいるようにみえるお寺として、珍しい建造物の寺院です。第21世住職の弁玉和尚は、幕末から明治初期に活躍した歌人として知られています。

❸ 本覚寺

「神奈川町本覚寺」横浜開港資料館所蔵、資料提供：横浜市広報課

横浜開港当時は、アメリカ領事館でした。当時のアメリカ領事ドーアは、庭の松の枝を払い落し星条旗を掲げ、寺の正門を白いペンキで塗り、さらに本堂の中を板で囲い、一般人の立ち入りを禁止していたと伝わっています。

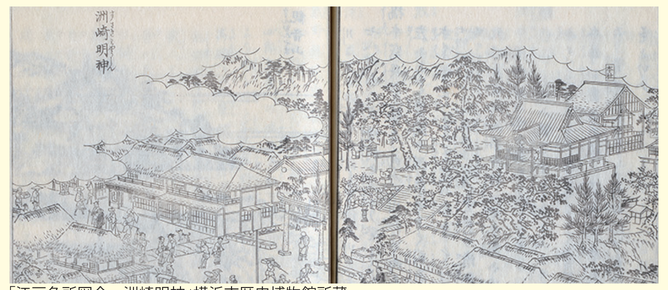
❹ 甚行寺

横浜開港当時は、フランス公使館でした。土蔵造りの本堂を改造し、公使館にあてたといわれています。

❺ 普門寺

洲崎大神の観世音ぼさつを安置したことにより、多くの人々に救いの門を開いている、という意味から「普門」と名付けられたそうです。

❻ 洲崎大神



「江戸名所図会　洲崎明神」横浜市歴史博物館所蔵

源頼朝がつくったとも伝わる神社です。昔、この神社にあったご神木のアハキがなまり、青木町の町名になったといわれています。

❼ 浄瀧寺

横浜開港当時は、イギリス領事館でした。横浜大空襲で焼けてしまいましたが、当時、イギリス領事が植えた「多行松」と呼ばれる松があり、横浜十名木とされました。

❽ 慶運寺

横浜開港当時は、フランス領事館でした。現在では、浦島観音をまつる浦島寺としても親しまれています（詳しくは裏面で）。

❾ 宗興寺とヘボン博士

横浜開港当時、アメリカ人宣教師で医者であったヘボンは宗興寺で診療を行っていました。たくさんの人がヘボンによって助けられたので、寺にはヘボンの記念碑が建てられています。ヘボンはまた、「ヘボン式ローマ字」でも知られています。

❿ 成仏寺

横浜開港当時、アメリカ人宣教師の宿舎として使われました。ヘボンは本堂に、ブラウンは庫裏に住んだといわれています。

⓫ 熊野神社と⓬ 金蔵院

「金川砂子
熊野社弓矢神楽」
国文学研究資料館所蔵

「金川砂子金蔵院熊野社」国文学研究資料館所蔵

熊野神社は、もと権現山にあり、江戸時代の中ごろに金蔵院の境内に移され、明治時代のはじめに現在の場所になりました。江戸時代の神奈川宿の様子を描いた「金川砂子」には、熊野神社と金蔵院が東西に並んでいる様子や、江戸時代後期の熊野神社の賑わいが描かれています。

⓭ 東光寺

小田原北条氏の家臣、平尾内膳がつくったといわれる寺です。本尊の薬師如来像は内膳の守護仏で、江戸城を築いたことで知られる太田道灌から授かったという説もあります。

⓮ 神明宮

かつて境内を流れていた上無川に牛頭天王の御神体が現れ、洲崎大神およびこの神社に牛頭天王をまつったとの言い伝えもあります。

⓯ 能満寺

鎌倉時代、この地に住む内海新四郎光善という人が、海の中から現れたぼさつ像を拾い、お寺を建ててまつったのがはじまりだといわれています。

⓰ 良泉寺

横浜開港当時、幕府からこの寺を外国人の宿にするように命令されましたが、お坊さんは屋根をわざとはがし、修理中だといって断ったといわれています。

⓱ 笠䅣稲荷神社

笠をかぶった人がこの神社の前を通ると、自然に笠が脱げ落ちたそうです。そのため笠ぬぎ稲荷と呼ばれるようになり、その後、笠ぬぎを笠のぎにいいかえたといわれています。

神奈川宿に関する史跡・名所

⓲ 上台橋

「神奈川駅中図会　西台之図」横浜市歴史博物館所蔵

かつて、あたりは、波の音が聞こえる海辺の道でした。この場所から見えた朝日は、ひときわ美しかったのでしょうか。「神奈川駅中図会」にも、その様子が描かれています。今は道路ができるとともに、その上に橋がかけられています。

⓳ 神奈川台の関門跡

「神奈川台の関門　幕末期」横浜開港資料館所蔵、資料提供：横浜市広報課

横浜開港後、外国人がおそわれるという事件がたくさん起こりましたが、犯人はなかなかつかまりませんでした。幕府は、横浜周辺にいくつかの関門や番所をつくり、警備に力を入れました。この時、神奈川宿の東西にも関門がつくられ、今は神奈川宿西側の神奈川台の関門跡に石碑が建っています。

⓴ 台町の茶屋

「金川砂子　台町茶屋」国文学研究資料館所蔵

現在の台町あたりはかつて、神奈川湊を見おろすことのできる東海道でも有名な景色のよい場所で、多くの茶屋が建ちならんでいました。この付近の地形は、今でも旧東海道の面影を残しています。

㉑ 一里塚跡

江戸時代には、大綱金刀比羅神社のすぐわきに、日本橋から七つ目の一里塚がおかれていました。一里塚とは江戸の日本橋を起点として一里（約4キロ）ごとにおかれた道しるべのことです。

「金川砂子　東台下飯綱社」国文学研究資料館所蔵

㉒ 宮前商店街と旧街道

宮前商店街は、台町あたりとともに、旧東海道の風情を今も感じられるところです。かつて、神奈川宿の「亀の甲せんべい」は有名でした。当時はめずらしかった砂糖をたっぷりと使っていて、大名や旅人が列をなして買いに来るほどでした。

㉓ 権現山（幸ケ谷公園）・㉔ 高札場（神奈川地区センター）

「金川砂子」国文学研究資料館所蔵

右図「金川砂子」には、江戸時代後期の神奈川宿の風景が描かれています。この絵にあるように権現山は、本覚寺のある山と幸ケ谷公園のある丘とがひと続きになった、ひときわ高い山でしたが、幕末から明治時代にかけて神奈川台場や鉄道用地の埋め立てに大量の土が必要になったため、切りくずされてしまいました。
滝の橋のたもとには高札場が見えます。高札場は幕府のおきてや決まり事などを人々に伝えるための重要な場所でした。高札場は、神奈川地区センターに復原されています。

㉕ 神奈川の大井戸

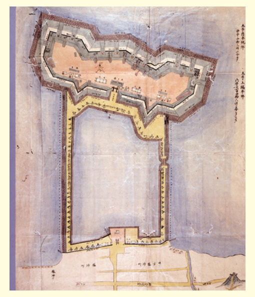
宗興寺の境内のすぐ脇には、「神奈川の大井戸」と呼ばれる井戸があります。徳川将軍や明治天皇が通る時には、その水が使われたといわれています。この井戸は、水の量が増えると次の日はお天気がよくなるといわれ、お天気井戸とも呼ばれていました。

㉖ 本陣跡

「金川砂子　青木町御本陣」国文学研究資料館所蔵

本陣とは、大名や公家などが泊まるための、幕府に認められている宿のことです。滝の川をはさんで東に神奈川本陣、西に青木本陣が置かれていました。

㉗ 神奈川台場跡（神奈川台場公園）



「神奈川台場図」横浜開港資料館所蔵

横浜開港当時、港の警備のため、権現山の土を使った「神奈川台場」がつくられました。勝海舟が設計に関わったといわれ、8,000坪（約26,000㎡）もの面積がありました。現在では周囲の埋め立てが進み、石垣の一部のみ見ることができます。平成22(2010)年には、神奈川台場公園が再整備されました。

㉘ 長延寺跡・土居跡

「金川砂子　並木町新町長延寺」国文学研究資料館所蔵

かつては、ここに長延寺が建っており、横浜開港当時はオランダ領事館でした。また、このあたりは、神奈川宿の江戸からの入口にあたり、高さ約2.5メートルの土居といわれる土盛りがありました。右図の「金川砂子」では、一里塚のように四角形の塚として描かれています。一般的には見付と呼ばれ、簡易な防御施設であり、宿場の範囲を示す役割を持っていました。

㉙ 滝の川と河童の伝説

かつて権現山からひとすじの滝が流れ落ち、滝川となってこの川に注いでいたことから、この川を「滝の川」というようになったという説があります。その滝つぼの主であった河童は、神奈川宿に出かけては旅人にいたずらをして人々を困らせていました。それを聞いた一人の侍が、見事にその河童をつかまえると、河童は涙を流しながら「夫が大蛇に殺されてしまい、二人の子を養うために、悪いこととは知りながら人間に迷惑をかけていました。二度と悪いことはしないので命だけは助けてください。約束のしるしに、命の次に大切なものを差し上げます」と懇願するので、侍も同情して許すことにしました。そしてその夜、侍の家に河童の夫のサラが投げ込まれ、それから宿場は静かになったそうです。

その他史跡・名所など

㉚ 埋立と高島嘉右衛門

「高島嘉右衛門の肖像」横浜開港資料館所蔵

高島嘉右衛門は、明治時代の初めに鉄道を通すための埋め立てに力を尽くしました。野毛浦石崎（今の中区）から神奈川停車場（今の青木橋付近）まで、長さ約1.5キロメートル、幅76メートルにわたって海面を埋め立て、鉄道用の土手をつくりました。そのため、埋立地は高島町と呼ばれるようになりました。

㉛ 鉄道の開通と青木橋

「神奈川蒸気車鉄道之全図」横浜開港資料館所蔵

本覚寺のある丘と幸ケ谷公園のある丘とは元はひと続きでした。この丘を切り開き、明治5(1872)年、新橋と横浜の間に鉄道が通されました。この工事の時、鉄道をまたいで旧東海道を結んで架けられた橋が青木橋です。

㉜ 宮川香山 眞葛ミュージアム

明治時代の陶芸家、宮川香山が作陶した眞葛焼を展示するミュージアムです。さまざまなモチーフの美しい作品を楽しむことができます。

宮川香山眞葛ミュージアム提供

ランドマーク

㉝ 中央卸売市場

昭和６(1931)年に日本で３番目に開設された歴史ある市場で、日本全国から生鮮食料品が集められ、横浜市のみなさんの食卓に届けられています。毎月第１・第３土曜日には、水産物部が市民開放され、さまざまな催しを開催しています。

㉞ シーバス乗り場（横浜駅東口ベイクォーター）

シーバスは、ベイエリアの名所を海から眺めながら移動できる海上バスです。ベイクォーター前に停泊し、赤レンガ倉庫や山下公園などに向け出航します。

㉟ ハマウィング

瑞穂ふ頭にある風力発電所で、最高到達点は118メートルです。年間発電量は約210万kWh（キロワットアワー）で、一般家庭約600世帯分の年間電力消費量に相当します。（瑞穂ふ頭は立入禁止です。※団体での見学可。【問】環境創造局環境エネルギー課671-2681）

㊱ 横浜銀行アイスアリーナ

平成27(2015)年にリニューアルオープンしたスケートリンクです。メインリンクとサブリンクの２つがあり、年間を通してスケートを楽しむことができます。

土木・建築遺構

㊲ 万代橋

滝の川にかかる、中央卸売市場の門前橋です。昭和3(1928)年に完成後、平成14(2002)年に架けかえられました。旧橋のデザインが復元され、石材の一部が再利用されています。

㊳ 瑞穂橋りょうと瑞穂橋

瑞穂橋りょうは、日本初の溶接鉄道橋で、昭和9(1934)年につくられました。溶接の技術は、船を造る分野から始まり、橋の技術にも広まっていきました。瑞穂橋は、平成7(1995)年に架けかえられました。

㊴ 青木町付近鉄道よう壁と本覚寺付近よう壁

青木橋の下にある鉄道擁壁は鉄道関係特有の谷積よう壁です。本覚寺付近よう壁でも同じ谷積を採用しており、景観の調和に配慮している点が興味深いです。

㊵ 日産自動車 横浜工場ゲストホール

「埋立地に完成した日産横浜工場本社事務所」横浜市史資料室所蔵

建物は、市内唯一の戦前期の工場事務所ビルとして貴重なもので、市の歴史的建造物に認定されています。現在はゲストホールとして利用されており、歴代のエンジンを紹介するエンジンミュージアムや、日産自動車の歴史展示を楽しむことが出来ます。